


クラス	専門演習 105	担当教員	吉村 輝彦
	テーマ	対話や交流の場づくり、人と人のつながりのデザイン、そして、コトづくり	
	著書・論文 研究課題等	[著書・論文]「福祉社会の開発」(共著、ミネルヴァ書房)「住民主体の都市計画」(共著、学芸出版社)「まちづくりの百科事典」(共著、丸善)「都市計画の理論」(共著、学芸出版社)「Innovative Communities」(共著、United Nations University Press)等。 [研究課題]「場」と「縁」のデザインとマネジメント学。まちづくりの支援的政策環境及び協働型まちづくりを支える住民参加システムについての実践的研究を行う。	

ゼミナール概要

キーワード：まちづくり、場と縁（つながり）のデザインとマネジメント、ファシリテーション、参加と協働

<自分自身の問題意識>

日本や開発途上国において、人々が幸せに生きていく、住んでいく、営みを行う「福祉」や「開発」のカタチはどのようなものであろうか。また、それを実現するためにはどのようなアプローチが求められるのであろうか？ こうした問題意識のもとで、日本や開発途上国で、「ふくし」を進めていくためには、そして、「ミライ」を描いていくためには、自分たちで意思決定を行い、自分たちで実行できる仕組みを作っていくことが重要である。ここには、参加や学びを促す仕組み、計画づくりや事業づくりの支援の仕組み、環境や福祉を射程にいったまちづくりのあり方、社会的起業を含めて地域を射程に入れた経済活動や生計活動を進めていくための仕組みが含まれる。

この実践では、様々な人が出会い、話し合い、交流し合う「場」（機会や空間）を創り出し、あるいは、人と人をつなぎ（デザイン）、やわらかく、しなやかに運用していくこと（マネジメント）が鍵になる。

<内容>

開発の基本的な理解とともに、グループ討論、発表ならびに学生諸君の現場でのフィールドワークをもとに、議論を行っていくので、みなさんの主体的な参加を期待しています。

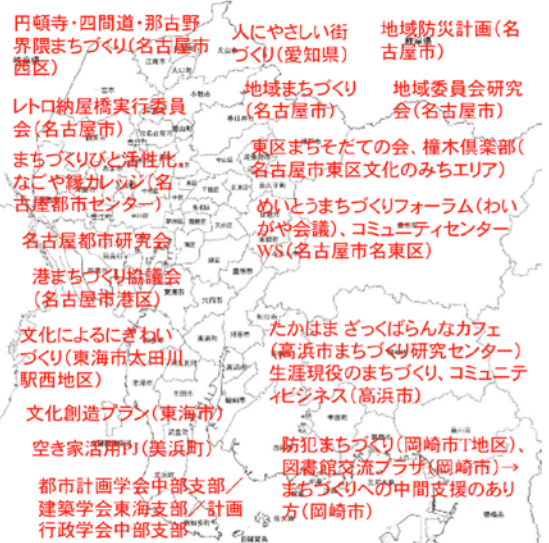
<授業計画>

各自の問題関心を踏まえて、専門演習における取り組み課題やプログラムを設定するが、フィールド調査、グループ討議や発表、また、実践的な活動に取り組みたい。このゼミを通じて、様々な技法（グループ討議、ワークショップデザイン、ファシリテーション技法）の習得を目指し、また、論理的思考能力・質問力や対話力・コミュニケーション能力・発信力を高める。【過年度の取り組み例：学内外のフィールドワーク、マップづくり、ポスターづくり、空き家活用プロジェクトへの参加、他学部ゼミとの合同ゼミ、ざっくばらんな討議、プロダクトデザインの検討、オープンキャンパスでの模擬講義、ゼミリンピック他】

こうした力は、社会のどんな現場やフィールドにおいても役立つ（特に、青年海外協力隊など地域を支援する仕事には不可欠な力）。並行して、公務員試験などを念頭に、各自の基礎的知識や基礎力アップも目指す。

また、勉強会や交流会、フィールド調査、ゼミ合宿の開催、縦割りゼミ交流、教員が関わる現場への同行など様々な機会を創出していくとともに、学生それぞれの関心やニーズにできる限り応えていきたい。それゆえ、ゼミでは学生の意欲的かつ主体的な参加や共同して取り組む姿勢が求められる。

ソーシャルの2面性	ソーシャルキャピタル	他者との関わり コンヴィヴィアリティ	つながりの 多様なカタチ そのチカラ
ソーシャル包摂と排除	ソーシャルの位置 ソーシャルデザイン	ヒトを 介在させる	ハコ、モノではなく、 コトを興す
居場所と出発	バルネラビリティ	ファシリテーション	リーダーシップと フォロワーシップ
幸せとつながり	コミュニティデザイン	1週遅れが、 トップランナー	発想の転換



※教員が関わる現在進行中のプロジェクトに関心があれば、積極的に関わって欲しい。

使用テキスト

特に使用しない。適宜資料を配布する。

学生へのメッセージ

それぞれの関心と結びつけながら、個々が実践していくための学びの場としていきます。みなさんの主体的な参加がなければ成立しません。受動的ではなく、自ら積極的に動くことを期待します。